

CHANDLER LIMITED[®]
CURVE BENDER
ユーザーズガイド

Softube ユーザーズマニュアル

© 2007–2016. Amp Room は、Softube AB, Sweden の登録商標です。Softube は、Softube AB, Sweden の登録商標です。Marshall、Super Lead、Plexi、1959 に関連するロゴ、及びすべての視覚と聴覚のリファレンスは、ライセンスを受けて使用している Marshall Amplification UK の商標です。Valley People Dyna-mite、Trident A-Range、Tonelux、Tilt への視覚と聴覚へのリファレンスは、PMI Audio から書面による許諾を得て使用されている登録商標です。Tonelux、Tilt logo、Valley People、Dyna-mite に関連するロゴ、Trident、A-Range、Triangle のゴロはライセンスに基いて使用されている PMI Audio Group の商標です。Summit Audio Inc. は、Baltic Latvian Universal Electronics, LLC の登録商標です。すべての仕様は予告なく変更することがあります。無断複写、転載を禁じます。

その他の会社名、および本書に記載されている商品名は、各社の商標、及び登録商標です。他社製品に関する記載は、情報提供のみを目的としており、保証、推奨するものではありません。Softube は、これら製品のパフォーマンス、または使用に関して一切の責任を負いません。

Softube 製品は、特許 SE526523、SE525332、関連する特許/特許 WO06054943、US11/667360、US20040258250、EP1492081、EP1815459、JP2004183976 によって保護されています。

ユーザーへのソフトウェアへの権利は付属のソフトウェア使用許諾契約書(EULA)に準拠しています。

謝辞とライセンスについて

‘**zlib**’ general purpose compression library version 1.2.8 の **zlib.h** インターフェイス、April 28th, 2013。Copyright © 1995–2013 Jean-loup Gailly と Mark Adler。このソフトウェアの一部は、copyright © 2006 **The FreeType Project** (www.freetype.org)です。すべての著作権を保有しています。**WonderGUI** は、Tord Jansson のライセンスに基づき使用されます。© 2004, 2006–2014 Glenn Randers-Pehrson による **Libpng** のバージョン 1.2.6, August 15, 2004 からバージョン 1.6.12, June 12, 2014 までは、同じ免責にとライセンスに従って頒布されています。いくつかのコードは、copyright © 2008 **The NetBSD Foundation, Inc** が所有しています。**VST** は、Steinberg Media Technologies GmbH のソフトウェアであり、商標です。Mac OS X のヘッダーは、**Apple Public Source License** (APSL) の元でカバーされ、<http://www.publicsource.apple.com/apsl/> でご利用可能です。

免責事項

あらゆる努力は、このマニュアルに記載されている情報が正確であることを確認するために行われました。しかし、我々はミスをしている可能性があり、我々も人間であるということをご理解いただけますと幸いです。ミスを発見した場合、我々にお知らせください。マニュアルの後のバージョンで修正します。

サポート

Softube のウェブサイト上 (www.softube.com)では、よくある質問(FAQ)や、様々な他のトピックへの答えを見るけることができます。

サポート的な質問は、<http://www.softube.com>, にポストしてください。

我々は出来るだけ速やかにお答えします。Web: www.softube.com

E-mail: info@softube.com

Phone: +46 13 21 1623 (9 am – 5 pm CET)

もくじ

1	ユーザーインターフェイス	5
	メニュー.....	5
	キーコマンド.....	6
2	<i>Chandler Limited Curve Bender</i>	7
	ユーザーインターフェイス	8
	使用方法.....	12
	M/S のヒント.....	12
	モノ/ステレオ・オペレーション	12
	クレジット	12

1 ユーザーインターフェイス

Softube プラグインは、“見たそのまま”の製品です。素早く、効率的に操作できるよう直感的に数分以内に使い方を覚えることができます。メニューのように Softube のすべてのプラグインで同じような部分がありますが、それについてはこの章で説明します。プラグインの特定の詳細な情報に関しては、それぞれの章を参照してください。

メニュー

プラグインインターフェイスの下部には、いくつかのボタンと細い黒い列があります。ここでは例として、Bass Amp Room プラグインを使用しますが、他のプラグインでも同様です。

About Box

About ボックスを開くと、バージョン情報を表示します。

Value Display

マウスがコントロールしているノブの値を表示します。

Enable

プラグインのオン/オフを決定します。オフではバイパスされます。

Setup

プラグイン全体の設定を変更するには、このグローバル・オプションを使用します。



Enable

Enable スイッチがオンになっている場合 (i)、プラグインはアクティブになり、オーディオ処理がなされます。オフ (0) にするとバイパスされ、オーディオ処理されません。バイパス時の CPU 消費率はかなり少なくなります。

“About” ボックス



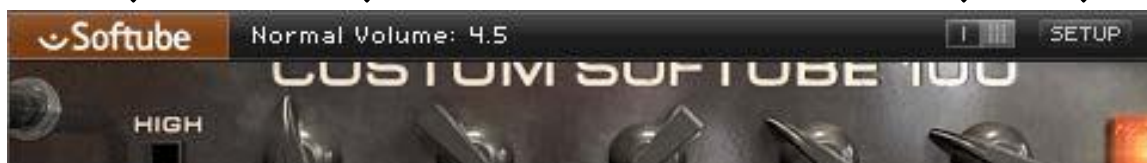
バリュー・ディスプレイ



Enable



セットアップ



セットアップ

セットアップウィンドウでは、プラグインの特定のインスタンスに影響を与える設定を行います。例えば、“Show Value Display”オプションの選択を解除した場合、プラグインは再びそのオプションを選択するまでシステム上のすべてのバリューディスプレイはオフになります。

Windows と Mac の間では、異なるオプションに変わっている場合があります。一般的なオプションは以下の通りです。:

Show Value Display: プラグインの下でパラメーターと値の表示を有効にします。

Reverse Mouse Wheel Direction: (Mac OS のみ)
ノブの動きに合わせてマウスホイールの上下を変更することができます。(Mac OS のみ)

変更を有効にするには、ホストアプリ(DAW)を再起動する必要があります。

もし、マニュアルでこのオプションを設定する必要がある場合は、下記の場所にテキスト形式でそれらを見つけることができます。:

Mac OS: ~/Library/Application Support/
Softube

Windows: username¥Application Data¥

キーコマンド

プラグイン内のすべてのナンバーとラベルはクリックすることができます。これは簡単に希望する値を入力、設定することができます。ラベルの上にマウスを乗せると指差し型のポインターに変更されます。

マウス

UP/DOWN マウスホイール

ノブやスイッチのパラメーター変更方法を選択

キーボード

ファインアジャスト t 𐀀 (Mac) or Ctrl (Win),
パラメーターの値を微調整する場合に使用

パラメーターのリセット

Alt キーを押しながら、ノブやフェーダーをクリックするとデフォルト値にリセットされます。

いくつかのマイクを同時にソロ

Shift キーを押しながらソロ・ボタンをクリック



2

Chandler Limited Curve Bender

Chandler Limited の創設者であり、チーフ・デザイナーである Wade Goeke には、現代のスタイルでにマッチする歴史的なコンソール EQ を再構築するべく多くのアイデアを持っていました。いくつかのプロトタイプでの実験後、彼はいくつかの新機能をこのイコライザーに取り込みました。そして、現代のクラシック - Chandler Limited Curve Bender EQ を作り上げました。

ビンテージサウンド、モダンな機能

それは **Chandler Limited EMI TG12345 Curve Bender** と呼ばれ、Abbey Road Studios の 75 周年の記念日に出荷されました。強力な機能は、素晴らしいサウンド・シェイピングの実力を与えます。



Abbey Road studios の EMI TG12345 mk II コンソール。写真: Josephenus P. Riley - Flickr: SAM_4386, CC BY 2.0.

Wade Goeke は、オリジナルの Abbey Road desk の 9 つの固定フリーケンシー・セクションに 51EQ ポイントに変更しました。また、Q をシャープにするだけでなく、10~15dB のブースト/カット機能を大幅に拡張するマルチプル・スイッチを追加しました。彼はさらにハイパス/ローパス・フィルターとベル/シェルフ選択を高低域に追加しました。

Chandler Limited EMI TG12345 Curve Bender は、すべてのレコーディングのためのモダンな EQ と EMI と Abbey Road Studios の歴史的なクラシック・イコライザーを完璧にモーフィングしてレコーディング、ミキシング、マスタリングのニーズにフィットさせています。

オリジナルの TG12345 のすべての機能に Curve Bender が追加した機能はパネル上で黄色いテキストで表示されています。オリジナルの機能は、ミッド/サイドのリンク機能を除き、白いテキストで表示されています。

ユーザーインターフェイス

上の行、左から右へ(右チャンネルも同様)

Bass Shelf/Bell スイッチ

ベース・バンドをシェフ、またはベル・タイプに切替えます。

Bass Frequency

ベース・バンドが動作する周波数帯を選択します。選択可能な周波数帯は、35、50、70、91、150、200、300Hz です。Out ではバイパスされます。

Presence 2 Frequency

プレゼンス 2 バンドの動作する周波数帯を選択します。選択可能な周波数帯は、0.3、0.4、0.5、0.8、1.2、1.8、2.8、3.6 kHz です。Out ではバイパスされます。

Presence 1 Frequency

プレゼンス1バンドの動作する周波数帯を選択します。選択可能な周波数帯は、0.8、1.2、1.8、2.8、3.6、4.2です。Outではバイパスされます。

Treble Frequency

トレブル・バンドの動作する周波数帯を選択します。選択可能な周波数帯は、3.6、4.2、6.5、8.1、10、12、16、20kHz です。Out ではバイパスされます。

Treble Shelf/Bell スイッチ

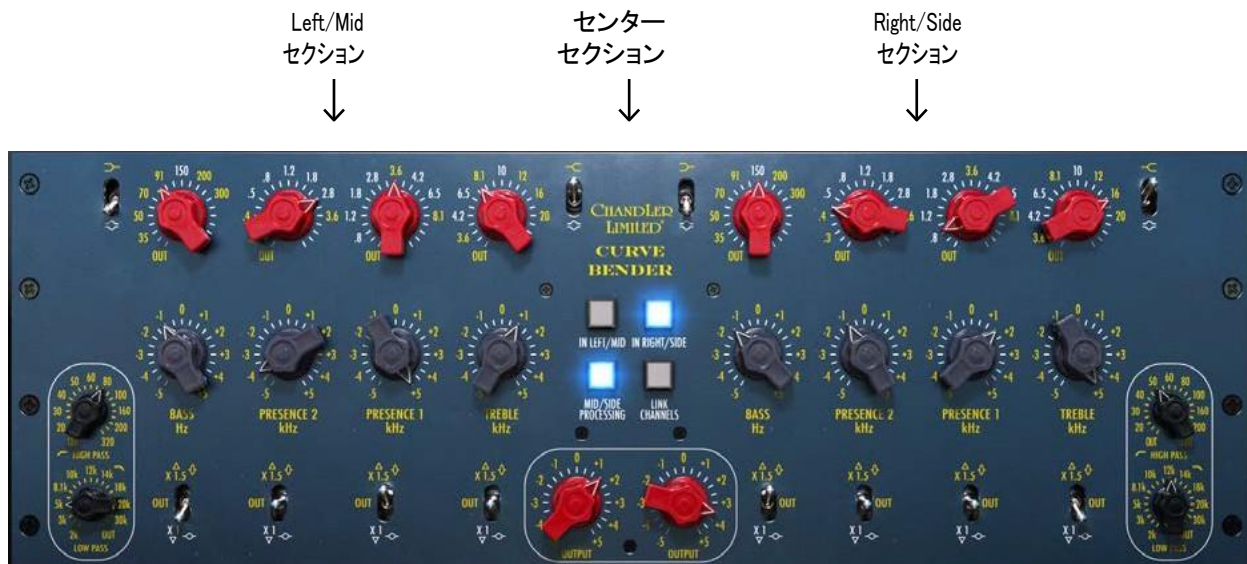
トレブル・バンドをシェルフ、またはベル・タイプに切り替えます。中段の列、左から右へ(右チャンネルも同様):

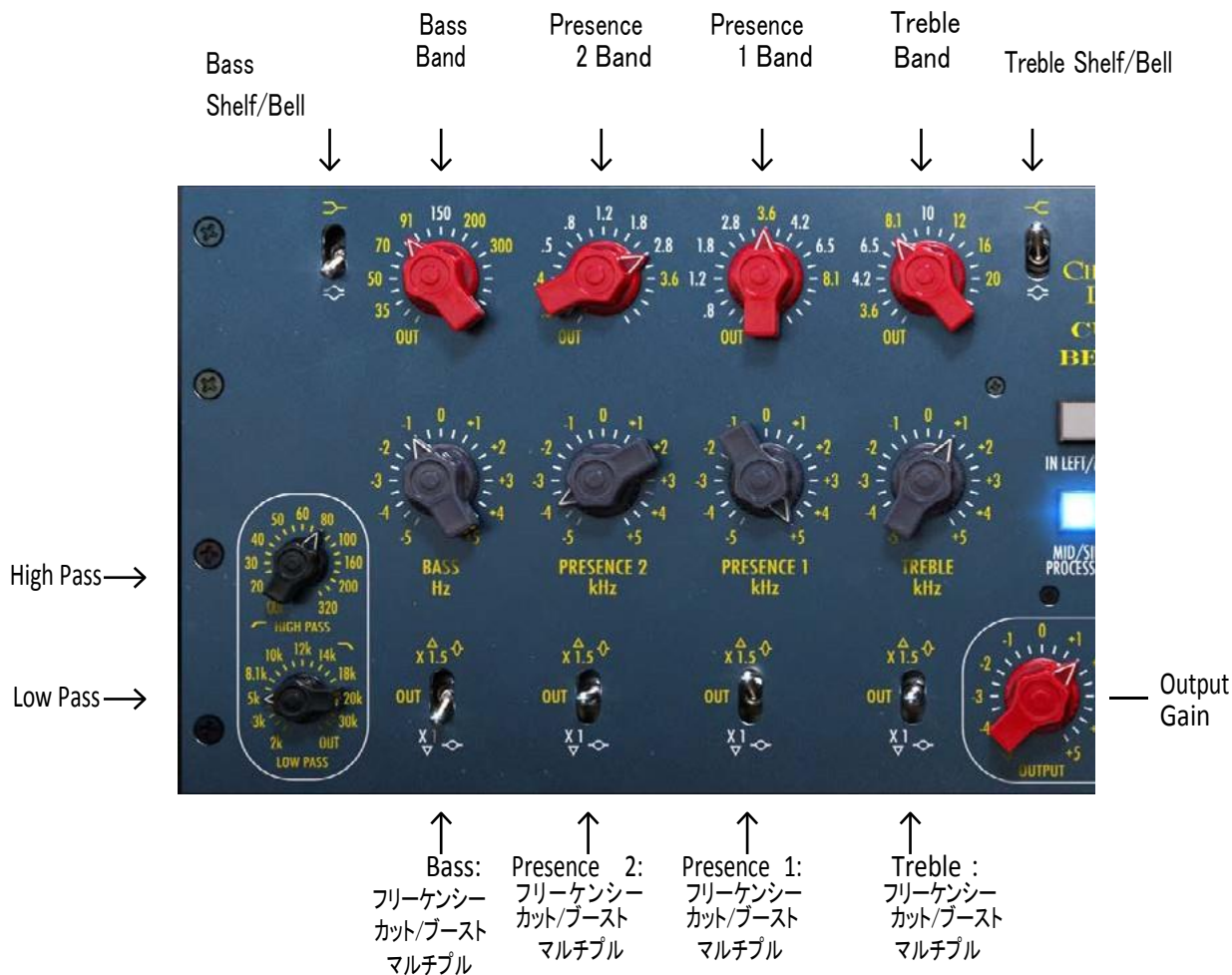
High Pass

ハイパス・フィルター(6dB/オクターブのスロープ)の動作する周波数帯を選択します。選択可能な周波数帯は、20、30、40、50、60、80、100、160、200、320Hz です。Out ではバイパスされます。

Low Pass

ローパス・フィルタ（6dB/オクターブのスロープ）の動作する周波数帯を選択します。選択可能な周波数帯は、30、20、18、14、12、10、8.1、5、3、2 kHz です。Out ではバイパスされます。





Cut/Boost

選択した周波数をマルチプル・スイッチのセッティングに従い、 ± 10 dB、または ± 15 dB のどちらかでカット/ブーストします。

下段の列、左から右へ(右チャンネルも同様)：

Multiply スイッチ

下向きに設定した場合、Abbey Road Studios のオリジナル・デスクと同じように最大で 10 dB の最大範囲でカット/ブーストを行います。上向きに設定した場合、よりアグレッシブなイコライジングを行なうために 15dB まで拡大されます。

これはまた、様々な音の調整のために EQ カーブの幅(Q)を減少させます。マルチプル・スイッチが中心位置の場合、対応するバンドはバイパスされます。

In Left/Mid

Curve Bender のプロセッシングをオン/オフし、Left/ Mid チャンネル (M/S プロセッシング・ボタンの状況に応じて) のサウンドをプロセッシング前後で比較するためにバイパスさせます。

In Right/Side

Curve Bender のプロセッシングをオン/オフし、Left/ Mid チャンネル (M/S プロセッシング・ボタンの状況に応じて) のサウンドをプロセッシング前後で比較するためにバイパスさせます。

Mid/Side プロセッシング

ミッド/サイド・プロセッシングのオン/オフします。Mid/Side モードでは、イコライザーの左チャンネルはミッド・チャンネルを、右チャンネルは、サイド・チャンネルをコントロールします。

リンク・チャンネル

ステレオ・モードでは左右のチャンネルを、Mid/Side モードでは、ミッドとサイド・チャンネルをリンクします。

センター・セクション



チャンネルをリンクされている場合、片方のチャンネルに行った調整は、他方にも反映されます。

アウトプット・ゲイン

アウトプット・ゲインを 0.5 dB ステップで調整します。アウトプット・レベルとプロセッシングしていないオリジナルのレベルが同じになるよう調整します。これによって Curve BenderA/B 比較、バイパスと組み合わせて正確な音作りが可能になります。

使用方法

Curve Bender は、まだ透明ではない音楽ソース内のコンテンツを修正します。これは、レコーディング、ミキシング、マスタリング時に有益です。ステレオ・ソース上にステレオ・モードのユニットとしてリンクして使用することがもっとも一般的な使用例と言えるでしょう。これは左右のチャンネルに対して全く同じ処理が適用されることを意味します。しかし、同じようにモノラル・ソースに対しても使用する場合、リンクを外して左右のチャンネルに別々のイコライジングを適用することができます。例えば、ステレオ・レコーディングで若干マッチしないマイクでレコーディングを行う可能性があります。この場合、Curve Bender のチャンネル・リンクを外し、どちらかのチャンネルに合うようイコライジングを適用し、改善することができます。

Mid/Side のヒント

Curve Bender プラグインは、ハードウェア上で使用できない“Mid/Side (M/S) モード”を提供しています。

Mid/Side モード中は、Curve Bender は、左右のチャンネルを別々にプロセッシングしません。

代わりに左右のチャンネル両方に共通しているマテリアルを含む、サウンドの中央部分に分離されます (モノラル部分)。他の部分は、左右間で異なる部分だけを含むサウンドのサイド部分です。

Mid/Side をマスタリングで使用する

Mid/Side プロセッシングでは、個々のチャンネルにアクセスすることなく、ステレオ・プログラム素材を扱うマスタリング時にとても有益です。たとえば、リード・ボーカルは一般的にステレオ・フィールド内の中心に配置され、完全なミッド・セクションに存在しサイドには存在しません。

リードボーカルにイコライザーをかけたい場合、同じ周波数域の他の楽器に影響を与えることなく Curve Bender を Mid/Side モードに設定し、ボーカルを調整するためにミッド部分のコントロールを使用します。このように操作すると、多くの場合パンニングされたギターやキーボードが存在するサイド部分は手付かずのままになります。もちろん逆の操作を行い、サイド部分にのみ影響を与えることも可能です。

ステレオ幅の調節について

Mid/Side プロセッシングはまたステレオ・サウンドをワイドに聴かせるために使用することができます。サウンドのミッド部分をわずかに小さくすることで、このような処理が可能ですが、行き過ぎるとミックスの中心に“穴”が開いたようになるので注意してください。

モノ/ステレオ・オペレーション

ラグイン は、モノ ステレオ、またはステレオ・モードでの動作が可能です。

モノ、またはマルチモノで Curve Bender を使用する場合、リンクと Mid/Side プロセッシングが必ずオフになっていることを確認してください。

クレジット

Kim Larsson, Arvid Rosén – モデリング

Niklas Odelholm – グラフィック・デザイン

Paul Shyrinskykh – プロダクト・オーナー、マニュアル

Henrik Andersson Vogel – マーケティング、マニュアル

Patrik Holmström – フレームワーク・プログラミング

Ulf Ekelöf – 3D レンダリング

